

モデル研修プログラム（大学）です。主に赤字部分を、各施設の状況に合わせて変更してください。

日本皮膚科学会 皮膚科専門医モデル研修プログラム（案）

補足欄

〇〇年度〇〇大学医学部皮膚科研修プログラム

A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

皮膚科専門医制度整備基準整に準じた内容です。このままでも問題ありません。

B. プログラムの概要：

本プログラムは〇〇大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、〇〇県立病院皮膚科、〇〇市立病院皮膚科、〇〇県立がんセンター病院皮膚科を研修連携施設として、また、〇〇大学医学部形成外科と別紙に記載している施設を研修準連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。（項目 J を参照のこと）

基幹施設及び連携施設名を記載ください。また、一人医長などを研修先の候補として予定している施設があれば、併せて記載ください。（別紙も可）

C. 研修体制：

研修基幹施設：〇〇大学医学部皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：〇〇〇（診療科長）

専門領域：皮膚腫瘍、皮膚病理学

指導医：〇〇〇 専門領域：乾癬、アトピー性皮膚炎

指導医：〇〇〇 専門領域：皮膚外科手術、皮膚腫瘍

指導医：〇〇〇 専門領域：皮膚科一般

指導医：〇〇〇 専門領域：皮膚科一般

施設特徴：専門外来として、乾癬外来、アレルギー外来、白斑外来を設けており、外来患者数は 1 日平均 200 名にのぼり、豊富な経験を積むことが可能。また、年間手術件数は 300 名を超える。研究の面では、

施設名のほか、施設の特色・特徴を貴施設 HP の皮膚科紹介ページを要約しつつ記載すると、専攻医の方はより分かりやすいと思います。例として 2 パターンを記載しました。

いくつかのグループを作り、指導医との連携を強め、多様な研究結果を創出している。

施設特徴：A県内の皮膚癌治療センターとなっており、外来手術を除いた年間手術件数は、約200名にのぼる。また、研修準連携施設には、テレビ会議を利用した独自のシステムを構築しており、適宜、症例写真などを確認しつつ遠隔地にいる指導医からの指導を受けることが可能となっている。

研修連携施設：〇〇県立病院皮膚科

所在地：〇〇県〇市〇町1-1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：〇〇〇（診療部長）

指導医：〇〇〇

研修連携施設：〇〇市立病院皮膚科

所在地：〇〇県〇市〇町2-2-2

プログラム連携施設担当者（指導医）：〇〇〇（医長）

研修連携施設：〇〇県立がんセンター病院皮膚科

所在地：〇〇県〇市〇町3-3-3

プログラム連携施設担当者（指導医）：〇〇〇（医長）

指導医：〇〇〇

研修準連携施設：〇〇病院 所在地：・・・（別紙でも可）

研修準連携施設：〇〇大学医学部形成外科

研修連携施設は常勤の専門医指導医がいる施設、準連携施設は指導医がいない施設を指します。なお、研修基幹施設同様、研修連携施設の特色・特徴を記載いただいても構いません。

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は、専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる

研修管理委員会委員

- 委員長：〇〇〇 (〇〇大学病院皮膚科長)
- 委員：〇〇〇 (〇〇大学病院皮膚科准教授)
- ：〇〇〇 (〇〇大学病院皮膚科講師)
- ：〇〇〇 (〇〇大学病院皮膚科助教)
- ：〇〇〇 (〇〇大学病院皮膚科外来看護主任)
- ：〇〇〇 (〇〇県立病院皮膚科部長)
- ：〇〇〇 (〇〇市立病院皮膚科部長)

委員長は研修プログラム管理責任者です。

医事統計上の数字を記載してください。1日外来患者数は年間外来患者延べ人数を外来稼働日数で除したものの、1日平均入院患者数は年間入院患者延べ数を365(閏年は366)で除したものを記載。

前年度診療実績：※当該プログラムに振り分けられる按分後の数字ではなく、施設としての実績を記載ください

皮膚科

	1日平均外来患者数	1日平均入院患者数	局所麻酔年間手術数(含生検術)	全身麻酔年間手術数	指導医数
〇〇大学	128人	14.2人	563件	48件	5人
〇〇県立病院	78人	10.5人	183件	8件	2人
〇〇市立病院	68人	4.5人	80件	0件	1人
〇〇県立がんセンター病院	42人	3.3人	50件	15件	2人
合計	316人	32.5人	876件	71件	10人

D. 募集定員：9人

募集上限は研修施設群の①合計指導医数、②合計1日平均外来患者数の1/20、③合計1日平均入院患者数の1/4のうち最も小さな数(小数点以下は切り上げ)までとする。また、募集定員数は上記の計算式の上限数を記載するのではなく施設として採用可能な専攻医の募集定員の適正数を記載してください。

E. 研修応募者の選考方法：

書類審査、小論文および面接により決定(〇〇大学医学部皮膚科のホームページ等で公表する)。また、選考結果は、本人あてに別途通知する。なお、応募方法については、応募申請書を〇〇大学医学部皮膚科のホームページよりダウンロードし、履歴書と併

選考内容や選考に必要な資料は各施設によって決定してください。

せて提出すること。

F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は、研修開始年の3月31日までにプログラム登録申請書（仮称）に必要事項を記載のうえ、プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後、同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会（hifu-senmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

選考に合格した専攻医の直近の手続きです。専攻医は皮膚科領域専門医委員会（皮膚科学会）へ通知する必要があります。この記載は変更の必要はありません。

G. 研修プログラム 問い合わせ先

〇〇大学医学部附属病院皮膚科
皮膚 太郎

TEL：XX-XXXX-XXXX

FAX：XX-XXXX-XXXX

プログラムに関する問い合わせ先を記載してください。

H. 到達研修目標：

本研修プログラムには、いくつかの項目において、到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムのp.26～27には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い、研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 〇〇大学医学部皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後、難治性疾患、稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。また、少なくとも1年間の研修を行う。
2. 〇〇県立病院皮膚科、〇〇市立病院皮膚科では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、〇〇大学医学部皮膚科の研修を補完する。〇〇県立がんセンター病院皮膚科では、主に皮膚悪性腫瘍に対する手術療法、化学療法、終末期

それぞれの研修施設で習得する事項を記載してください。形成外科、膠原病科などの他科での研修は準連携施設（指導医のいない施設）として1年間まで研修として認められますので組み入れを希望される場合には必ず記載しておいて下さい。

医療を習得する。また、これらの連携研修施設のいずれかで、少なくとも3ヶ月の研修を行う。

3. 準連携施設である〇〇病院皮膚科、〇〇病院皮膚科では指導医不在の一人医長として、また〇〇大学医学部形成外科は関連他科での研修として最長1年間の研修を行う可能性がある。一人医長として研修する専攻医は、前者は〇〇大学医学部皮膚科、後者は〇〇県立病院皮膚科の指導医と密に連絡を取り、診療の相談、カンファレンスへの参加を随時行う。また、形成外科で研修を行う場合、皮膚科カンファレンス、抄読会には参加することとする。

J. 研修内容について

1. 研修コース

本研修プログラムでは、以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。

ただし、研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹	基幹	連携	連携	基幹
b	基幹	基幹	連携	連携	連携
c	連携	連携	基幹	基幹	基幹
d	基幹	形成外科	がんセンター 皮膚科	連携	基幹
e	基幹	連携	連携	準連携	基幹
f	基幹	連携	連携	大学院 (研究)	大学院 (臨床)
g	連携	大学院 (研究)	大学院 (研究)	大学院 (臨床)	大学院 (臨床)

いくつかの研修コースを記載してください。また、各種コースの概要も記載すると、専攻医の方は分かりやすいかと思います。連携施設は具体的な研修施設名を記載出来る場合には記載してください。

- a : 研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として1年ごとで異動するが、諸事情により2年間同一施設もあり得る。

- b : ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。
- c : 研修連携施設から研修を開始するコース。
- d : 研修 2 年目に大学形成外科, 3 年目にかんセンターにて研修し, 皮膚外科医を目指すコース。
- e : 研修 4 年目に一人医長として研修準連携施設で研修し, 地域医療の経験を積み, 翌年大学にて研修するコース。
- f : 研修後半に, 博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的コース。
- g : 専門医取得と博士号取得を同時に目指すハイパーコース。多大な努力を 5 年間持続する必要がある。特に 4 年目, 5 年目は濃密な臨床研修を行わないとカリキュラム修了は困難である。カリキュラムを修了できない場合は 6 年目も大学で研修することを前提とする。

2. 研修方法

1) ○○○大学医学部皮膚科

外来 : 診察医に陪席し, 外来診察, 皮膚科的検査, 治療を経験する。

病棟 : 病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察, 検査, 外用療法, 手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い, 評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い, 評価を受ける。

抄読会では 1 回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し, 年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また, 皮膚科関連の学会, 学術講演会, セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に 1 編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

各施設での研修方法を記載してください。研修の週間予定表は, 午前・午後の区分のみですが, 例えば, 1 時間単位などより詳細に記載いただいても問題ありません。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟 回診	病棟 病理 カンファレンス	病棟 カンファレンス	病棟	病棟		

2) 連携施設

〇〇県立病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。〇〇〇大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟 外来	病棟 カンファレンス	病棟 外来 カンファレンス	病棟	病棟 外来		宿直※

※宿直は1回／月を予定

〇〇市立病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。〇〇〇大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来 手術	病棟	外来		
午後	病棟 手術	外来 カンファレンス	病棟 カンファレンス	外来	病棟 手術		

〇〇がんセンター病院皮膚科：

皮膚外科医を目指すコースを選択した場合に限り 1 年間研修する。皮膚悪性腫瘍患者の手術療法，化学療法，緩和医療を中心に習得する。この期間は〇〇〇大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会は参加しなくて良い。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟	外来	病棟	外来	病棟 手術		

3) 大学院(臨床)

基本的に日中は大学病院にて 1) と同様にフルタイムで研修し，17 時以降，大学院講義出席，臨床研究，論文作成等を行う。

4) 大学院(研究)

皮膚科以外の臨床教室，基礎教室にて皮膚科に関連する研究を行う。この期間，大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

5) 研修準連携施設

〇〇病院，△×病院では現在指導医が不在であるが，地域医療を担う重要な病院である。皮膚科医として独立した診療が出来るよう経験と知識をより深化するため専門研修の後半に 1 年間に限り，1 人での診療を行うことがある。また，大学病院および近隣の指導医のいる研修連携施設(××病院，○×病院)に患者紹介や診療相談を行うことにより，病診連携を習得する。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1 年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 2 年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。

簡易的な年間予定表です。実際の研修状況は施設によって、様々だと思いますので、詳細に書く必要はありませんが、参加すべき学会、研究会があったら記載して下さい。

5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
9	
10	試験合格後：皮膚科専門医認定
11	
12	研修プログラム管理委員会を開催し，専攻医の研修状況の確認を行う（開催時期は年度によって異なる）
1	
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し，年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

K. 各年度の目標：

- 1, 2年目：主に〇〇大学医学部皮膚科において，カリキュラムに定められた一般目標，個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し，経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。
 - 3年目：経験目標を概ね修了し，皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
 - 4, 5年目：経験目標疾患をすべて経験し，学習目標として定められている難治性疾患，稀な疾患など，より専門性の高い疾患の研修を行う。3年目までに習得した知識，技術をさらに深化・確実なものとし，生涯学習する方策，習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり，その成果を国内外の学会で発表し，論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり，研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。
- 毎 年 度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、●●
●●**地方会**には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMed

各年度で習得すべき事項を記載してください。特に追記する箇所がなければ、このままでも問題ありません。

などの検索や日本皮膚科学会が提供する E-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

L. 研修実績の記録：

1. 「研修の記録」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、利用すること。
2. 「研修の記録」の評価票に以下の研修実績を記録する。
経験記録（皮膚科学各論，皮膚科的検査法，理学療法，手術療法），講習会受講記録（医療安全，感染対策，医療倫理，専門医共通講習，日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会，専攻医選択講習会），学術業績記録（学会発表記録，論文発表記録）。
3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医，指導医，総括プログラム責任者は「研修の記録」の評価票を用いて下記（M）の評価後，評価票を毎年保存する。
5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，確認すること。特に p. 15～16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

研修実績の記録簿に記載する内容を記載しています。特に変更する必要はありません。

M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと，知識の習熟度，技能の修得度，患者さんや同僚，他職種への態度，学術活動などの診療外活動，倫理社会的事項の理解度などにより，研修状況を総合的に評価され，「研修の記録」に記載される。

1. 専攻医は「研修の記録」の A. 形成的評価票に自己評価を記入し，毎年 3 月末までに指導医の評価を受ける。また，経験記録は適時，指導医の確認を受け確認印をもらう。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価，指導医に対する評価，研修施設に対する評価，研修プログラムに対する評価を記載し，指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合，研修プログラム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。
3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また，看護師などに他職種評価を依頼する。

研修評価のプロセスを記載しております。特に変更しなくても問題ありません。

以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。

4. 研修プログラム責任者は、研修プログラム管理委員会を開催し、提出された評価票を元に次年度の研修内容、プログラム、研修環境の改善を検討する。
5. 専攻医は研修修了時まで全ての記載が終わった「研修の記録」、経験症例レポート 15 例、手術症例レポート 10 例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。
6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断、異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大 6 ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

研修を中断、異動した際の原則を記載しております。このままで問題ありません。

O. 労務条件、労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与、休暇等については各施設のホームページを参照、あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね 2～3 回/月程度である。

労働条件を記載してください。記載内容はサンプルの程度で問題ありません。

20〇〇年〇月〇日

〇〇大学医学部皮膚科

専門研修プログラム統括責任者

〇〇 〇〇